

患者向医薬品ガイド

2024年4月作成

ヒダントールD配合錠 ヒダントールE配合錠 ヒダントールF配合錠

【この薬は？】

販売名	ヒダントールD配合錠 HYDANTOL D COMBINATION TABLETS	ヒダントールE配合錠 HYDANTOL E COMBINATION TABLETS	ヒダントールF配合錠 HYDANTOL F COMBINATION TABLETS
一般名	フェニトイン・フェノバルビタール・安息香酸ナトリウムカフェイン Phenytoin・Phenobarbital・Caffeine and Sodium Benzoate		
含有量 (1錠中)	フェニトイン16.667mg フェノバルビタール 8.333mg 安息香酸ナトリウム カフェイン 16.667mg	フェニトイン20.833mg フェノバルビタール 8.333mg 安息香酸ナトリウム カフェイン 16.667mg	フェニトイン25mg フェノバルビタール 8.333mg 安息香酸ナトリウム カフェイン 16.667mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗てんかん薬と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳の過剰な興奮をしずめて、てんかん発作を抑える働きがあります。
- ・次の目的で処方されます。

てんかんのけいれん発作

強直間代発作（全般けいれん発作、大発作）

焦点発作（ジャクソン型発作を含む）

自律神経発作、精神運動発作

- ・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にヒダントール配合錠に含まれる成分、ヒダントイン系化合物またはバルビツール酸系化合物で過敏な反応を経験したことがある人
- ・心臓に重篤な障害のある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人、腎臓に重篤な障害のある人
- ・肺に重篤な障害のある人
- ・急性間欠性ポルフィリン症の人
- ・ポリコナゾール、タダラフィル（肺高血圧症を適応とする場合）、マシテンタン、チカグレロル、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コビシスタット、ドラビリン、イサブコナゾニウム、ルラシドン、エンシトレルビル、ミフェプリストン・ミソプロストール、リルピピリン、ニルマトレルビル・リトナビル、リルピピリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ソホスブビル・ベルパタスビル、ソホスブビル、レジパスビル・ソホスブビル、ドルテグラビル・リルピピリン、カボテグラビル、レナカパビルを使っている人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・高齢の人
- ・虚弱な人、呼吸機能の低下している人
- ・頭部外傷後遺症または進行した動脈硬化症の人
- ・心臓に障害のある人、肝臓に障害のある人、腎臓に障害のある人
- ・血液障害がある人
- ・消化性潰瘍のある人
- ・甲状腺機能低下症の人

- ・薬物過敏症の人
- ・アルコール中毒のある人
- ・薬物依存の傾向のある人または過去に薬物依存の傾向のあった人
- ・重篤な神経症の人
- ・糖尿病の人

○この薬には併用してはいけない薬 [ポリコナゾール (ブイフェンド)、タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ)、マシテンタン (オプスミット)、チカグレロル (ブリリント)、アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)、ダルナビル・コビシスタット (プレジコビックス配合錠)、ドラビリン (ピフェルトロ)、イサブコナゾニウム(クレセンバ)、ルラシドン (ラツータ)、エンシトレルビル (ゾコーバ)、ミフェプリストン・ミソプロストール (メフィーゴ)、リルピビル (エジュラント)、ニルマトレルビル・リトナビル (パキロビッド)、リルピビル・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン (オデフシィ配合錠)、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ビクタルビ配合錠)、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (シムツーザ配合錠)、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド (ゲンボイヤ配合錠)、ソホスブビル・ベルパタスビル (エプクルーサ配合錠)、レジパスビル・ソホスブビル (ハーボニー配合錠)、ドルテグラビル・リルピビル (ジャルカ配合錠)、カボテグラビル (ボカブリア)、レナカパビル (シュンレンカ)]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	ヒダントールD配合錠	ヒダントールE配合錠	ヒダントールF配合錠
1日量	6～12錠		
飲む回数	1日数回に分けて飲む		

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分をすぐに飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

初期症状として、呼吸抑制(呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる)、眼振(意識しないのに眼が勝手に動いてしまう)、構音障害(舌のもつれ、しゃべりにくい)、

運動失調(手足の動きがぎこちない、言葉がききとりづらい、ふらつき、まっすぐ歩けない)、眼筋麻痺(眼を自由に動かせない)などがあらわれることがあります。その他の徴候として、振戦(手足のふるえ、首のふるえ)、過度の緊張亢進、嗜眠(刺激がないと眠ってしまう)、言語障害(しゃべりにくい、発語が不明瞭になる、言語による表現や理解ができなくなる)、嘔気(吐き気)、嘔吐(おうと)があらわれることがあります。重症の場合は、昏睡状態(意識の消失、刺激に全く反応しない)、血圧低下(脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、意識の消失)になり、呼吸障害(息苦しい、息切れ)、血管系の抑制、肺の合併症、腎障害(尿量が減る、むくみ、体がだるい)により死亡することがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬の使用中は薬剤の血中濃度を測ることがあります。
- ・この薬を続けて飲んでいる場合に、急に薬を減量したり飲むのを中止したりすると、てんかん発作をくりかえし、なかなか回復しない状態(てんかん重積状態)があらわれることがあります。高齢の人、虚弱の人は特に注意してください。この薬を中止する場合には徐々に減量されます。自分の判断で薬を減量したり飲むのを中止したりせずに、医師の指示通りに飲んでください。
- ・この薬の使用中は、定期的に肝機能検査、腎機能検査、血液検査が行われます。
- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起こることがあるので、自動車 の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないようにしてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

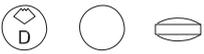
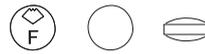
重大な副作用	主な自覚症状
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆう かいしやう (トキシック・エピダー マル・ネクロリシス: テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群) ひふねんまくがんしやうこうぐん (スティーブンス-ジョンソンし やうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
紅皮症(剥脱性皮膚炎) こうひしやう (はくだつせいひふえ ん)	ほぼ全身の皮膚が発赤する、発熱をしばしば伴う、しばしばフケのようなものがはがれおちる
過敏症症候群 かびんしやうしやうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根など)のはれ
SLE様症状 エスエルイーようしやうじやう	体がだるい、関節の痛み、発熱、顔の赤い発疹、体重が減る
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠
再生不良性貧血 さいせいふりやうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸、あおあざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
汎血球減少 はんけつきゆうげんしやう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゆうきゆうしやう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
単球性白血病 たんきゆうせいはいけつびやう	体がだるい、発熱、めまい、息切れ、出血しやすい
血小板減少症 けつしやうばんげんしやうしやう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい

重大な副作用	主な自覚症状
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	からだのだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
赤芽球癆 せきがきゅうろう	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
悪性リンパ腫 あくせいリンパしゅ	リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、寝汗をかく、体重が減る、発熱、食欲不振
リンパ節腫脹 リンパせつしゅちょう	リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
小脳萎縮 しょうのういしゆく	めまい、ぎこちない話し方、発音が不明瞭になる、手足の運動がうまくできない、転びやすい
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
急性腎不全 きゅうせいじんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
悪性症候群 あくせいしょうこうぐん	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、からだがだるい、ふらつき、疲れやすい、立ちくらみ、関節の痛み、高熱、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ(水疱)、さむけ、汗がたくさん出る、脱力感、貧血、リンパ節のはれ、寝汗をかく、体重が減る、からだのむくみ、38℃以上の発熱、ふるえ、手足の運動がうまくできない
頭部	しばしばフケのようなものがはがれおちる、ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、幻覚、不眠、めまい、頭痛、急な意識の低下、ぼーっとする
顔面	顔に赤い発疹、鼻血
眼	眼の充血やただれ、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り
口や喉	唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきの出血、血を吐く、吐き気、咳、ぎこちない話し方、発音が不明瞭になる、嘔吐、話しぶらい、よだれが出る、飲み込みにくい
胸部	息切れ、動悸、息苦しい、呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる、呼吸数が増える
腹部	お腹が張る、食欲不振、腹痛
手・足	関節の痛み、手足のふるえ、手足の運動がうまくできない、手足のこわばり、手足のしびれ、脈が速くなる
皮膚	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、全身性の発疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、発疹
筋肉	筋肉の痛み
便	便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)、下痢
尿	尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる、尿量が減る
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

販売名	ヒダントール D配合錠	ヒダントール E配合錠	ヒダントール F配合錠
PTPシート	表面 	表面 	表面 
	裏面 	裏面 	裏面 
形状	円形の素錠 	円形の素錠 	円形の素錠 
直径	9.1mm		
厚さ	3.8mm		
重さ	250mg		
色	白色		
識別コード	◇ D	◇ E	◇ F

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ヒダントール D配合錠	ヒダントール E配合錠	ヒダントール F配合錠
有効成分	日局フェニトイン 日局フェノバルビタール 日局安息香酸ナトリウムカフェイン		
添加物	乳糖水和物、バレイショデンプン、タルク、ステアリン酸マグネシウム		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：藤永製薬株式会社 (<https://www.fujinaga-pharm.co.jp/>)

販売会社：第一三共株式会社 (<https://www.daiichisankyo.co.jp/>)

製品情報センター

電話：0120-693-132

受付時間：9:00～17:30

（土、日、祝日、会社休日を除く）